

ENEOS スーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE

第4戦 スーパー耐久 in スポーツランドSUGO

apr

Racing Constructor

apr

Racing Constructor



ENEOSスーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE第4戦

開催地：スポーツランドSUGO（宮城県）×3.586km

7月5日（予選・決勝）

天候：曇り一時霧 コースコンディション：ウェットのちドライ 観客数：4,300人

鵜飼選手を助っ人に仰ぎ、ポール・トゥ・ウィンで今季 2 勝目挙げる。まさに完勝！

2026年もaprは、全8大会で争われるスーパー耐久シリーズに、FIA-GT3で競われるST-Xクラスに臨む。「DENSO LEXUS RC F GT3」をドライブするのは、永井宏明選手と蒲生尚弥選手、小河諒選手、そして嵯峨宏紀選手だ。なお、今回は永井選手が出場できず、昨年も代役を務めてくれた鵜飼龍太選手をAドライバーとして登録している。

第3戦「富士24時間」では予選で2番手となり、決勝でもスタートからしばらくは快調に周回を重ねていたものの、土曜日の夜半に排気系トラブルが発生。修復なったものの、序盤のうちに勝負権を失ってしまう。それでも諦めずに粘り強く走り続けた結果、4位でゴール。0ではなく、23ポイント獲得できたことが、最終的に重要な意味を持つ可能性もある。

そして、まだランキングも3位。残り4戦もあることを思えば、トップとの差はまだ詰められる。シリーズ終盤戦の“捲り”に乞うご期待！

公式予選 7月5日（日）8:25～

今回は、スポーツ走行が木曜日に、専有走行が金曜日に行われるものの、ST-Xクラスを含むグループ1にとっては、土曜日はウォームアップもなく、完全にオフとなる。2 グループ開催なのだが、グループそれぞれ 1 日で予選、決勝を行うためだ。気分もリフレッシュできて、逆に日曜日は予選とインターバルの間隔が短い。予選結果次第では、いい緊張感といいムードの中、決勝に臨めることだろう。

そのためにも 2 日間の練習は、普段以上に重要な意味を持つ。ところが、木曜日は満足に走れないほどの雨に見舞われたセッションもあり、金曜日の専有走行の 1 回目もまた、始まりの路面は濡れた状態。今回もADVICS製の菅生サーキットにベストと思われるブレーキパッドを持ち込み、その評価も気になるところだ。そこから雨は徐々に弱まって、最後になってようやくドライタイヤでも走れるように。ウェットセットは詰められたものの、ドライセットを試すまでには至らなかったものの、幸いにして専有走行 2 回目はドライタイヤで走れるように。

蒲生選手による確認が行われた後、鵜飼選手の習熟に多くの時間が割かれ、最後に再び蒲生選手が乗り込んでアタックシミュレーションが行われた結果、1分22秒190が記録されて 2 番手に。手応えも得られることとなった。

なお通常ならば、AドライバーとBドライバーのタイム合算で決勝グリッドを決める予選だが、今回はノックアウト方式となった。BドライバーがQ1を走り、Aドライバーが走るシステムながら、SUPER GTとは異なるのは、Q1下位のチームはそこで終わりではなく、Q2Bも走った上で順位が決まることだ。もちろんQ1上位のチームはQ2Aを走り、天候変化などでQ2Bでタイムが上回られたとしても、入れ替わりはない。

その予選だが、日曜日のSUGOは早朝から霧で覆われており、「もしや……」という状況に。結局、10分遅れの開始となり、ギリギリ視界は保たれた。路面はしっとり濡れていたが、ドライタイヤでも行けそうな雰囲気ではあったものの、Q1の計測はわずか5分。ドライタイヤの温まりが間に合わないことは明かだったから、蒲生選手は迷わずウェットタイヤを選択。しかも計測1周目からアタックを開始すると、1分28秒400で 2 番手に。計測2周目にはタイムダウンしたから、判断としては賢明だった。ともあれ、「DENSO LEXUS RC F GT3」は、Q 2 A進出を果たす。

Q 2 Aもコンディションは、ほぼ変わらず。さすがに蒲生選手のように、即アタックとは行かず、鵜飼選手は1周をウォームアップに充てるも、次の周回で叩き出された2分29秒410はトップタイム！「DENSO LEXUS RC F GT3」が今季初、昨年の第5戦・オートポリス以来となるポールポジションを獲得した。

ただ、その後に行われるはずだったCDドライバー予選は、霧が再び濃くなって視界不良のためキャンセル。小河選手と嵯峨選手はドライコンディションで走っていないこと、さらに決勝に向けたチェックができずじまいだったことに、一抹の不安を残した。





鵜飼龍太選手

タイヤはウェットで行きました。コンディションが難しくて、かなり緊張しましたが、最初に走った蒲生さんから、ドライビングのアドバイスをしっかりしていただいて、自分の弱点を理解しましたので、気をつけながら走行したことによって、まずまずのタイムが出せて、結果を出せました。車のバランスもブレーキのコントロール性も良かったです。決勝でも、しっかりミスなく頑張ります。



蒲生尚弥選手

ウェットタイヤで行って、なんとか（Q2Aに）残れて、その後、鵜飼さんも本当にいい走りをしてくれたので、抜きにくい菅生でのポールポジションは良かったと思います。けっこうウェットタイヤだと、雨量が少なすぎる状態だったので、タイムが出るのは1周しかないという難しい予選でした。決勝は全員でパーフェクトなレースを目指します。



小河諒選手

鵜飼選手が助っ人として来てくれて、素晴らしい予選のアタックでポールポジションを獲得してくれたので、決勝も鵜飼選手に『おんぶに抱っこ』で行きたいです（笑）。24時間は早々のトラブルで残念な結果になっちゃいましたけど、そこからチームが車をいろいろリフレッシュしてくれて、走り出しの大雨、昨日の走行でも大きなトラブルなく、ここまでできているので、しっかりポイント獲得して、シーズン後半戦につなげたいと思います。



嵯峨宏紀選手

練習もそんなに乗ってなくて、グレー路面しか走っていないので、なんとも言えないですけど、コース自体は個人的には好きなコースなので、しっかり結果を残したいという思いが強いですね。ここまでの流れを見ていて、こういうグレー路面の予選でポール獲得なので、チャンスはあると思うので、ミスなくやれば、いいところに行けるんじゃないかと思っています。

金曽裕人監督

うん、悪くない、悪くない。全体的に流れも悪くないですし、車のバランスもADVICSブレーキパッドもバランスはいいし、あとはこの天気次第で、決勝がどういう展開になるか？ みんな同じ条件だからこそ、欲をかかず無事に表彰台に上がりたいですね。クラッシュやミスのない、レースができればいいなと思っています。



決勝レース 7月5日（日）13:00～

予選終了から、ほぼ3時間。ピットワークを挟んでもう決勝のスタート進行が開始された。慌ただしくはあったが、何しろポールポジションからのスタートだ。ピットには高揚感もあった。気になる路面状態だが、一部にウェットパッチは残っていたが、迷わずドライタイヤで挑めるように。あとは、このまま天候が保ってくれることを祈るだけだ。

今回もスタートを担当するのは小河選手。まずは無難にダッシュを決め、1周目はオーバーテイク最大のチャンスながら、まだラインを外すと姿勢を乱しかねない状態だっただけに、後続も無理に飛び込んでは来ない。「DENSO LEXUS RC F GT3」はトップを守ったまま、1周目を終了する。

しばらくは背後に2台がびたりと着いて、緊張感に満ちた状態が続くも、20周目を過ぎたあたりから小河選手のペースが明らかに後続を上回るように。スタートから1時間を経過しようという頃、雨が降り出すと差を詰められる状況もあったが、1時間12分走行し続けた小河選手は、50周目に嵯峨選手と交代。ガソリン満タンながら、タイヤ無交換で「DENSO LEXUS RC F GT3」はコースに送り出される。

タイヤのライフは未知数だったが、熱を残したままだったから、しっとり濡れた路面には程よくマッチした。嵯峨選手はやがてトップに振り返り咲く。しかし、周回を重ねるごとタイヤはさすがに厳しくなって、交換した車両が徐々に差を詰めてくる。60周目に逆転を許すも、これはやむを得まい。スタートから1時間45分経過した72周目に、鵜飼選手にバトンを託す。

ショートステントだったことで、他とは交代のタイミングが異なることから、いったんは3番手に退く格好となったが、それでも10秒ほどあった差を、鵜飼選手は確実に詰めていき、80周目の1コーナーで2番手に浮上！一方、先行するもう1台、すなわちトップは100周目の交代でもポジションをキープしたが、鵜飼選手はジェントルマンドライバー同士の戦いなら容赦なし。やはり10秒ほどあった差を徐々に縮めていき、やがて1.5秒を切るまでとした。そのまま周回を重ねれば、きっと鵜飼選手はコース上で抜いてきてくれたはず。だが、いい意味でのタイムアップに。義務づけられた1時間をしっかり走破してくれたからだ。116周目には蒲生選手へスイッチし、残り1時間余りを任せることに。

再び3番手に退いた格好ながら、先行する2台はまだ最後の交代を済ませていない。トップに振り返り咲くのは時間の問題と、蒲生選手は淡々と周回を重ねていく。その2台は142周目、同時にピットイン。「DENSO LEXUS RC F GT3」はトップ再浮上、それも大量のリードを得た上で！40秒ほどの貯金を掃き出すことなく、最後まで蒲生選手は安定の走りを見せ、もてぎでの第1戦・レース1以来となる、今季2勝目をマークした。

シリーズ第5戦はオートポリスが舞台。わずか3週間のインターバルでの開催となる。この勢いは間違いなく保たれているはずだ！





鵜飼龍太選手

すごく嬉しいです！ 皆さんの積み重ねで、車も昨年よりもコントロールもしやすくバランスが良かったですし、それぞれ頑張った結果だと思います。ちょっと自分が1コーナーで、オーバーテイクを無理しちゃったので、危ないところもあったんですけど、ブレーキでも無理が効く車に仕上がっていたので攻めて行きました（苦笑）。残りのレースも# 3 1 RCFを全力で応援します。



蒲生尚弥選手

作戦も見事に決まり完璧なレースだったと思います。展開的には大きなギャップもあったので、あまり無理せずチェッカーまで運べました。全ての皆さんのおかげで、そういう展開になりました。良かったです、本当に嬉しいです。後半戦もこの流れをキープですね。



小河諒選手

優勝できて、良かったです～。ぶっちゃけ今週はドライ初めての走行だったので、最初は車のペースつかむのが難しかったんですけど、蒲生選手が僕にいい戦略を授けてくれていたので、それをちゃんと遂行して、トップで戻ってくることができました。嵯峨選手には無交換で満タンという、ちょっときついところを走ってもらったんですけど、しっかりとバトンつないでくれて。鵜飼選手もいいペースでだし、蒲生選手にギャップを築いて渡せたので、横綱相撲のいいレースができたので、この勢いをオートポリスに引き継いで、シリーズ獲れるように頑張ります。



嵯峨宏紀選手

タイヤは無交換で、後半はけっこうきつかったです。ちょっとバックマーカーの処理がうまくいなくて、抜かれちゃった感じだったんですけど……。結果的にレース全体を見た時に、戦略的には、あれが一番良かったと思うので、それがうまくはまったという感じでしたね。

金曽裕人監督

ドラスティックな作戦も決まりましたし、ドライバーが笛を吹いたとおり、完璧に全力で踊ってくれました（笑）。過去一の完勝と言っていいでしょう！ でも、展開と天候に恵まれたっていうのが正直なところですが。我々が速かったというよりも、作戦勝ちとドライバーがノミスで行ってくれ、展開に恵まれたっていうだけで、実力はそこまで高かったかという、そうでもなく。でも、シリーズを見据えてはすごく面白いレースが出来たので、今回はプラスばかりです。ただ今年、優勝しているのがポイントの低いレースしか獲れていないので、次のオートポリスは5時間ですしレギュラーAドライバーの永井選手も参戦なので、高得点を目指します！

